

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

主にある兄弟姉妹の皆さんへ

日 本 聖 公 会
首座主教 ヤコブ 宇野 徹
正義と平和委員会

イ ラ ク 問 題 に 関 す る 声 明

キリストの平和が皆さんとともにありますように。

現在、世界はイラク問題を巡って、戦争か平和的解決かを選択する極めて重要な局面にあります。この問題についてのわたしたちの考えを、主にある兄弟姉妹の皆さんに明らかにし、日本聖公会の全教会で、戦争を回避するための祈りが献げられることを願っています。

神は天地万物をお造りになり、ことに人間をご自身のみかたちに似せて造られました。これは、すべての人間が神に愛されている、かけがえのない尊い存在であることを示しています。ですから神は、モーセをとおして、「あなたは殺してはならない」(出エジプト 20:13)という戒めを与えられ、神の愛の対象である人間が、互いの命を奪い合うことを禁じられたのです。神に愛されている人間の尊い命を奪うテロや戦争は、この戒めに反する行いです。わたしたちは、あらゆるテロ行為と戦争に反対することを表明し、アメリカ政府に、この戒めを守り、イラクに対する武力攻撃の政策を、直ちに止めるように要請します。

人間の歴史は、この戒めを守ることなく、戦争や大量殺戮を繰り返してきました。悪に対して悪をもって報いるというのが、罪人である人間の行いでした。神は、わたしたちをこの罪の鎖から解放するために、み子・主イエス・キリストをお遣わしになりました。主は、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ 5:44)と教え、そしてその言葉を生きられました。十字架につけられた主は、「父よ、彼らをお赦しください」(ルカ 23:34)と祈られたのです。今、アメリカ政府は、イラクを「悪の枢軸」と呼び、大量破壊兵器の存在とテロ支援を口実に、戦争を起こそうとしています。イラクという「悪」に対して、アメリカは戦争という「悪」で対抗するというのです。もしアメリカが実際にイラクを攻撃すれば、さらなる「悪」が登場し、世界は「悪」で覆われることになるでしょう。この悪の鎖を断ち切るためには、主キリストによって示された信仰に堅く立ち、これを実行する勇気が求められます。わたしたちは、アメリカ政府の指導者に、この信仰と勇気が与えられるように祈ります。

日本は、先の戦争による尊い内外の犠牲者の上に作られた「平和憲法」をもっています。憲法第九条は「戦争放棄、軍備及び交戦権の否認」を謳っていますが、これは、キリストが教えられた信仰と完全に一致します。全聖公会は、すでに 1930 年に開催されたランベス会議で、「国際紛争を解決する手段としての戦争は、我らの主イエス・キリストの教えと模範に相容れない」との声明を出していますが、憲法第九条にも、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」とあります。しかし日本政府は、憲法に反して、アメリカのイラク攻撃支持を表明し、後方支援を名目に海上自衛隊の艦艇を海外に派遣し、さらには今国会に、戦争のできる国を作るため、有事法制関連法案を上程しようとしています。わたしたちは、日本政府に対して、戦争協力や戦争のできる国作りではなく、平和憲法を遵守して、平和を希求する政策実行を要請するとともに、イラクだけでなく、世界のあらゆる国々、ことに経済的に豊かな「先進」諸国と核保有国が、大量破壊兵器のみならず、軍備そのものを否認する道を歩むように求めます。

テロや戦争の背景には、社会的不正義が存在しています。この不正義が糾されなければ、平和を実現することはできません。正義をとまわらない真の平和は存在しないのです。主は、「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイ 5:9)と教えられましたが、現に世界に存在する不正義によって、貧困、抑圧、差別の中に生きている人びとの叫びに耳を傾け、これら虐げられている人びとのために働くこと、すなわち正義のために働くことが、平和を実現することに繋がっているのです。正義と平和のための働きは、わたしたちの信仰の実践そのものです。日本聖公会は、過去において正義と平和の実現のために働くことができませんでした。1996年の総会で「戦争責任に関する宣言」を決議して、かつての戦争協力の罪を告白し、これからは「神の民として正義を行うことへと召されていることを自覚し、平和の器として、世界の分裂と痛み、叫びと苦しみの声を聴きとることのできる教会」に変わる決意を内外に表明しました。イラク危機に際して、虐げられている人びと、ことに今この時、戦争の恐怖の中で生きているイラクの人びとの声に耳を傾け、戦争反対の声を上げ、正義と平和の実現のために、共に祈りを献げ、行動をしてゆくことが、求められています。

本日から大斎節が始まりますが、わたしたちの信仰生活にとって大切なこの期間を、自分の信仰の修練の時としてだけでなく、正義と平和のための祈りと行動の時として守ってくださればと、願っています。

主にあって

2003年3月5日 大斎始日